

---

# 狼少年と嘔吐き少女

櫻木 夢羽

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

狼少年と嘔吐き少女

### 【Nコード】

N3092M

### 【作者名】

櫻木 夢羽

### 【あらすじ】

笑いながら嘔吐を吐く少年と、泣きそうになりながら嘔吐を吐く少女のお話

ほら、また君の笑顔が凍りつく。僕が嘘を言うから。僕が笑いながら嘘を吐くから。僕が嘘吐きだから。僕が狼少年だから。

「この前ね、魔女に会ったんだ。お菓子の子の家の魔女にね。凄い恐かったんだよ」

「・・・そう」

どうしようもなく悲しい。そんな表情を顔面に飾りながら、君は笑う。そんな顔が、僕は世界で一番嫌い。

だけど、それでも僕は嘘を吐く。

「凄く恐ろしい奴だったんだよ。けどね、全然恐くなかったんだよ」

「さつき恐かったって言ったわ」

知ってるよ、自分で言ったんだから。それくらい分かってる。

「・・・僕は魔女に捕まったんだけど、妹が助けてくれたんだよ」

「妹なんていないでしょう？」

僕は、にこり、と笑ってみせる。君は、泣きそうになりながら笑い返す。

「そう、その通りだね、うん。・・・それよりさ、体は平気？」

「ええ。すっかり良くなったわ」

嗚呼、君は気付いてる？自分の顔が、今どれだけ醜いか、知ってる？泣きそうなのに、笑ってる。馬鹿みたい。

その言葉が嘘だと、僕は知ってるよ。君が、僕に嘘を吐いてることは知ってるよ。知ってるんだ。

「本当に？」

「ええ、後少ししたら、歩けるようになるって」

ねえ、君は知ってる？その、『あと少し』が何回目か。僕は、数

えるのを諦めたよ、とつくの昔に。

「じゃあさ、歩けるようになったら、僕の家においでよ。母さんも、父さんも喜ぶよ、きつと」

また、君の顔は僕の大嫌いな顔になる。

「お父さんとお母さんなんて、いないでしょう?」

「何言ってるの? あ、妹もきつと喜ぶよ」

その顔がなければ、とつても幸せな筈なのに。

「何で、何で嘘ばかり吐くの?」

「偽りこそが、本当の優しさ。真実こそが、この世で最も残酷だ」

「え…….?」

君の間抜け面を見下ろして、僕は笑ってみせる。

「君が言っただ」

「そんなこと、言っていないわ」

ああそうさ、君は言っていない。

「でも、そう思ってるだろう? だから、僕に嘘を吐くんだろう?」

「なん、のこと?」

まだ、嘘を吐くのかい。君は、嘘を嫌うのに。滑稽だね。

「君は、後数ヶ月で死ぬんだ。そうだろう? 君の病気は治らないんだ。知ってるよ。ずっと、ずっと前から」

「なんで…….?」

嘘がばれるのは、そんなに恐いこと?

「嘘を吐くなどとは言わないよ。けれど、嘘で姿を隠されてしまうのは、とても寂しい。君は、知ってるだろう?」

「ねえ、僕らに残された時間は残り僅かだ。だけど、後数ヶ月位は、素直に生きてみない?」

（後書き）

結局自分は何が言いたかったのでしょうか；

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3092m/>

---

狼少年と嘔吐き少女

2010年10月20日19時53分発行